前川中だより

教育目標「自 学」・「親 愛」・「鍛 錬」

「MAEKAWA PRIDE」 ～自信・可能性・誇り～

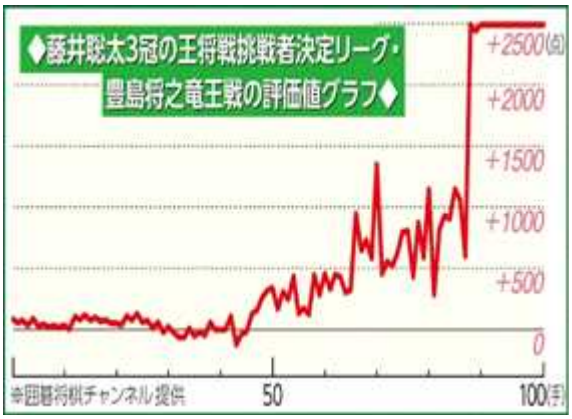
三郷市立前川中学校　　令和４年１１月１日（火）

生徒数 1年130名 2年139名 3年139名 特支18名 計426名

僅差で将来を藤井曲線のように成長させよう

校　長　　南　慎一

将棋の世界で中学生の君たちよりほんの少し年上の棋士と言えば、『藤井聡太』氏を思い出す人は多いのではないでしょうか。その藤井聡太氏にまつわるお話で『藤井曲線』という言葉が使われているそうです。棋士の藤井聡太５冠の対局においてＡＩ（人工知能）が示す形成判断のグラフが、中盤以降、藤井５冠の方へ徐々に優位が拡大する曲線を描くことが多くなるとのことです。このことから生まれた言葉だそうです。



藤井５冠に敗れた多くの棋士が対局後に、「どこの手が悪かったのかわからない」と、口にするそうです。藤井５冠の特徴の１つは、序盤からの「読みの深さ」と言われています。それが小さい差を生み、終盤には大差になっている、とも言われています。

将棋には、「定跡（じょうせき）」と呼ばれる必勝パターンがあります。昔からの研究で、最善とされる手です。ところが、藤井５冠には定跡から外れた手を指し、それが優勢の因になることがあります。思考を固定化せず、それまでの前例を見直す姿勢が読みの深さに繋がっています。前例にとらわれず、何が最善の手かを考えます。将棋の世界の話は、人生や社会にも応用できると考えられます。コロナ禍の中、今までの当たり前がそうでなくなりました。物事の前提を疑い、柔軟に考え、行動を変える必要性を誰もが実感したに違いありません。

さて、中学生の君たちに当てはめての僅差(きんさ)（わずかな差）とは、何でしょうか。例えば学習に関連したもので考えれば、ほんの少しこだわった＋α(ﾌﾟﾗｽｱﾙﾌｧ)の授業中のメモをとり、先生や友達に質問します。また、解法がわかった数学の問題を1問多く解いて自信を付けようとします。さらに家庭学習の時間を今までよりも１５分間多めに挑戦して、学習の定着を確かなものにしようとします。他にも、学習計画、学習方略などの学習に関する部分にも当てはめて考えることがでると思います。生活面においては、時間的に余裕を持ち、安全面に注意を払って登下校します。髪の毛や爪などが伸びてきたなと感じれば、自主的にカットします。さらに、帰宅時、玄関で自分の靴の向きを変えて揃えます。など細かな生活習慣の改善ができると思います。

校長として、前川中学校や家庭で取り組む僅差が中学校卒業後の人生に、藤井曲線のように大きくプラスにはたらくことを強く願っています。あきらめず粘り強く”積小為大”の実践をしていきましょう。地域や保護者の皆様も生徒の成長のため、ご支援ご協力を引き続きお願いいたします。